

自己評価報告書(最終報告)

報告者

授業実践・カリキュラム開発
コース/廣瀬 隆司

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

教職大学院の教員として、
①担当する科目では、目標論・内容論・方法論・評価論を考慮し、担当する授業内容の本質的な側面に留意し、院生の指導に当たる。
②授業方法としては、授業内容のプリント・授業内容に関連する資料等を用意し、教師としてのより実践的な力や教師としての姿勢が身に付くように指導に当たる。
③成績評価は、自己評価・観察・提出物・テスト等の評価法の内、複数を用いて行う。

2. 点検・評価

①担当科目については、学校現場の実践と関連づけるように指導を行った。そのため、目標論・内容論・方法論・評価論における各授業の本質となることに関して、院生とのコミュニケーション等を行い、授業を通して、院生が考えたこと・思ったことをできるだけ聞くようにした。
②授業内容のプリント・授業内容に関連する資料等については、実践的なものを用意し、現場での実践に役立つように配慮した。
③評価は、自己評価・観察・レポート等により行った。特に、「教材・教具の開発演習」では、4月に院生自身の学校での実践が控えていたので、院生の専門教科に焦点を絞り、レポートを提出させた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

①自主的な学習活動を促すために、授業時におけるコミュニケーション活動・探求的学習等を取り入れた授業を展開する。
②授業中、授業に対する理解状況についてのレポートを作成させたりして、授業内容・授業方法の改善を図る。
③院生の進路や悩み等の相談に随時応じる。

2. 点検・評価

- ①授業時の院生の活動が活発になるように、授業を展開した。これは、昨年6月に行われた公開授業で見ていただいたとおりである。
- ②院生とのコミュニケーションを図っていたので、問題はないと考えている。
- ③「学校アセスメント」に関しては、全体説明だけでなく、個々の院生に対して、学校の実情に合わせて、相談に応じてきた。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

本年度の研究テーマは、

- ①「算数教育における教師の思考と言動に影響する心的要因のメカニズム」
- ②「内包量の深層構造化に関する研究」

である。

- ①・②については、学会発表と学会誌への投稿を計画している。

2. 点検・評価

中間報告に示したように、今年度は、A論文1件、紀要クラスの論文3件、学会発表4件を行った。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 担当する委員会の委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

財務委員会の委員として、本学の運営に関わった。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属小学校の合同研究会への参加(附属学校)。
- ②附属小学校の算数担当教員の協力を得て, 附属小学校での算数科の授業を行う(附属学校)。
- ③大学と社会との交流の機会を随時捉え, 社会に貢献していきたい(社会との連携)。
- ④JICA等の国際協力事業に貢献する(国際交流)。

2. 点検・評価

- ①附属小学校の合同研修会や附属小学校の教員との話し合いを活発に行った。
- ②附属小学校での授業の代わりに, 研究会での公開授業のに関して, 教員と話し合った。
- ③中間報告に示したような授業と補習を, それぞれ6月と7月に行った。また, 割合の指導について, 2月から3月上旬に描けて神戸市立本山第二小学校において授業実践を実施した。
- ④大洋州地域・西アフリカ地域の研修生を対象として, 授業を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

中間報告で述べた公開授業を行った。